

御立派な御夫人だ今始めて常識を持つた人らしい御夫人になりました、まあ結構な事ですよ

ケベリー夫人(吸墨簿の下から見え隠れに見えるチルタン令夫人からの手紙をちらと見て) 後世ですから水を一杯頂かして下さいませ

ゴーリン子爵 サア御遠慮なく

(部屋の隅に行きコップに水を注ぐ、ゴーリン子爵の背を向ひてる間にチルタン夫人からの手紙をソツと盗む、ゴーリン子爵がコップに水を入れて彼女の處に來ると好い加減にあしらつて水を飲もうともせず)

ケベリー夫人 どうも恐れ入ります、済みませむが外套を着せて下さいな

ゴーリン子爵 サア着せて上げましやう(外套を着せる)

ケベリー夫人 何うも種々恐れ入ります もう決してチルタン様を虐待めは致しませむ、

ゴーリン子爵 もう大丈夫ですケベリー夫人、貴女にはもう夫をする機會がありやしませんから

ケベリー夫人 否え若し機會があつたとて 私もう致しませんわ反對に何かチルタ

ン様の御爲になる様働させうね

ゴーリン子爵 貴女の口からそれを聞いて實に嬉しい大改革大革命………

ケベリー夫人 さうですとも私には何程何でも剛直い名譽ある英國紳士とさう欺さ

れて一所には到底行けませんものね

ゴーリン子爵 そんな事を云つて好んですか

ケベリー夫人 時にチルタン令夫人が貴郎に切ない訴えやら白状やらをなさつた其

お手紙がひよつと私の衣袋の中にまぎれ込んで居るんですよ

ゴーリン子爵 夫は又何う云ふ事なんです

ケベリー夫人(勝誇つた華々しい調子で) 否え何チルタン御令夫人が今夜貴郎にお

送りになつた情文をチルタン様にお上げしやうと思つて……

ゴーリン子爵 情文ですて？

ケベリー夫人(笑ひながら) 「御願ひが御座います御信用致します 御伺ひ致した

うございます……ガートルードより」

(ゴーリン子爵急ぎ引出を開き封筒を取り出し見る、見れば中には手紙なき故)

ゴーリン子爵 貴女は極い女だ始終人の物ばかり狙つて居る、サー手紙を返して下

さい出さなければ腕づくでも取つて見せますよ 貴女が手紙を渡さない迄は決して

外には出しません

(彼は彼女に飛びかからむとす、ケベリー夫人手早く傍なる机上の電鈴を押すとベ

ルは喧ましく鳴りフィツプス夫に答えて登場)

ケベリー夫人(間を置いて) 子爵が私を遂ひ出しにお前さんと呼んだの!?ゴーリン

子爵様左様なら御機嫌やう

(フィツプスを伴ひ戸外に出る彼女の顔は醜悪な勝利に勝ち誇り輝き 眼は喜びを
もて光り うら若い気分は再び彼女に蘇生したるが様、彼女が最後の眼光は矢の如
く疾く閃く、ゴーリング子爵は唇を噛みながら煙草に火を點ず)

(幕)

第四幕

場面

第二幕と同じ

(ゴーリン子爵兩手を衣袋に入れ、爐の前に立ち、何れかと云へば、退屈さうに見える)

ゴーリン子爵(衣袋より時計を引き出し、見て直に鈴を押す) 大きに退屈だな、話相

手はなし折角面白い話が澤山あるのにな、何か新刊書で、もあるやうに感じられる

(僕ゼームス入り來たる)

ゼームス 子爵様、ロバート卿は未だ外務省からお歸りになりませんでございます

ゴーリン子爵 chalタン令夫人は未だお見えにならないかね、

ゼームス 御令夫人様は未だお部屋からお出になりません、chalタン嬢様は今御乗

馬からお歸りになりましたが………

ゴーリン子爵(自分に) 夫れでは何か用事でもおありなんだらう

ゼームス カバーシヤム伯爵閣下も先程より圖書室で御待ちになつて居らつしやい
ます子爵様のお出での事もさう御話いたしましたして御座います

ゴーリン子爵 有難う だがもう歸つたと云つて呉れないか

ゼームス(禮をして) 夫ではさう申して参りましやう(僕は室外に去る)

ゴーリン子爵 眞實この二三日は父に會いたうない、父に會ふと云ふ事は息子にとつて是位神經を悩ますものはない善と云ふものがあるなら父が子に會はないやうにするそれが善といふものだ、世の父と云ふものは子に顔も見せず言葉も聞かせないやうにすべきもんだこれが家庭唯一の基礎だ、母と云ふものは又別者だ 母てふものは有難い者だ(椅子の上に身を投げ新聞を取つて讀む)

(カバーシヤム伯爵登場)

カバーシヤム伯爵 おい何を爲らよる 相變らず暇つぶしかの?

ゴーリン子爵(新聞を下に置いて立ち上り) 父上 人を訪門して其人には暇つぶし

になるか知れませんが決して自分の暇潰しになんかなるもんではありませんよ、

カバーシヤム伯爵 昨夜話した事を考えて置いたかの

ゴーリン子爵 昨夜から其事ばかり考へて居ました

カバーシヤム伯爵 結婚の約束でも出来たかいの

ゴーリン子爵(機嫌好く) それは未だ 然しお晝迄には出来ませうよ、

カバーシヤム伯爵(皮肉に) お前に都合好けれや晝迄にでも出来やうよのう

ゴーリン子爵 大きに恐れ入ります、或はそれよりも早く出来ませうよ、

カバーシヤム伯爵 馬鹿を云へ、戯談計り云つて……見辨えがつかず、戯談を云

つちよる

ゴーリン子爵 父上 私には眞面目な時ッてありませんよ

カバーシヤム伯爵 今朝のタイムスを讀んぢやらうか?

ゴーリン子爵(上調子に) タイムスですて、生憎未だ読んでません、モーニング、ボストだけは読みましたかね、現代生活に就いて知らねばならぬ總ては公爵夫人等が何處に居るかと云ふ事です其他の事は凡て不徳義な事計りです

カパーシヤム伯爵 ロバート、チルタン氏の行動を論説にした今朝のタイムスを見なかつたと云ふんかね?

ゴーリン子爵 さア大變、見ませんでしたか何云つてありましたか?

カパーシヤム伯爵 何てあつたと聞くんか 勿論お世辭澤山な事計りぢや 昨晚チ

ルタン氏が議會でやつた亞然丁開整計畫案の演説は素敵な雄辯ぢやつたそうぢや、カンニング以來の雄辯家ぢやつて讀めてあつたよ、

ゴーリン子爵 カンニングなど聞いた事もない そんな事は何うでも好いですが、チルタン君は計畫案を主張したと云ふのですか

カパーシヤム伯爵 主張した? 馬鹿を云つちや困るお前は全てチルタン氏を知らん

の彼は計畫案を手強く罵倒し去つたのぢや其上近代財政制度全部を罵倒し去つて終つたのぢやタイムスが云つてる通りこれや全く彼の生涯の展開機と云ふもんぢや、此記事を讀んで見い(タイムスを擴げる)

『ロバート、チルタン卿……少壯政治家中の新進氣鋭な……最も光輝ある雄辯家……春天白日の經歷……其廉潔なる性格は普く世人の知る所……英國に於ける最も善良なる公的生涯の代表者……外國政治家中に於て普通なる緩道徳に對し異彩を放ちて高潔なる對比』

お前に對して斯な事は云へないぢや

ゴーリン卿 云つて呉れないで 幸です然し父上ロバート君の事をさうと聞いて愉快で堪りません 眞實に愉快でなりません、ロバート君も大した勇氣を振ひ起したもんだ

カパーシヤム伯爵 お前も議會に出たらどうぢや

ゴーリン子爵 御父上 議會なんか餘り氣の利いた人が入る所ではありませんよ然し却つて左様云ふ人の方が彼處では成功して居ますね

カパーシヤム伯爵 お前も少しは眞面目な生甲斐のある生活をせんければいかん
ゴーリン子爵 まだく若いですからね、

カパーシヤム伯爵(氣早に) 俺はもう其若い振りが大嫌ひぢやそれが現代的と云ふんか知らんが何の若い者もそんな事を云つて居る

ゴーリン子爵 青年は振る事ではないのです青年は一種の藝術なんです、
カパーシヤム伯爵 お前何故あの美しいチルタン嬢に結婚を申し込まんのぢや

ゴーリン子爵 私は神經質な性質なんですから殊に朝の間は尙さうなんですから：
カパーシヤム伯爵 チルタン嬢もお前の相談に乗つて呉れる事はよも無からうが何うぢやの

ゴーリン子爵 さア、今日何うなるかそれは判りません、

カパーシヤム伯爵 若し彼女がお前の結婚の申出を承諾などしたらそれこそ英國一の馬鹿娘ぢや

ゴーリン子爵 エ、其馬鹿娘が好いんですよ生中利巧な妻君を持つたが最後半歳と經ぬ間に全然痴者にされて終ふんですから

カパーシヤム伯爵 然しお前もチルタン嬢のお相手にはチト物足らんやうぢやね
ゴーリン子爵 御父上 釣合つた婦人などと結婚すると祿などになりませんよ

(マベル、チルタン登場)
マベル、チルタン嬢 カパーシヤム伯爵様御機嫌やう如何でいらッしやいます 奥様も御健勝で?

カパーシヤム伯爵 妻も相變らずぢや
ゴーリン子爵 マベル嬢御機嫌好う

マベル、チルタン嬢(ゴーリン子爵には頓着なく専らカパーシヤム伯爵に向ひて)

奥様はお腦の方は如何でいらつしやいます？

カパーシヤム伯爵　それが又再發し出したんでのう困つた事ぢや

ゴーリン子爵　マベル嬢様御機嫌好う

マベル、チルタン嬢（カパーシヤム伯爵に向ひ）　手術なしで済むと結構ですわね

カパーシヤム卿（彼女のコマシヤクれて居るのに微笑しながら）　さうぢやとも、

ぢやが若し其様な事になつたとしたら魔薬でも使はんと羽毛の觸れるのを嫌がツて

仕様がるまいと思んぢや

ゴーリン子爵（聲を強めて）　マベル嬢様御機嫌好う

マベル、チルタン嬢（態と屹驚さしが如く振り向き）　まア貴郎其處へ居らした

ので御座いますか、けれどゴーリン子爵様貴郎は御自分のお約定を反古になすつた

んでしやう、ですから私貴郎とお話するのは嫌や……

ゴーリン子爵　左様な野暮は云ひこなしにしましやう私の云ふのを聞いて呉れるの

は倫敦中で貴嬢一人なんですよ

マベル、チルタン嬢　ゴーリン子爵様　私と貴郎とは何方もお互に云ふ事を信ずる

事が出来ないんですわ

カパーシヤム卿　然うぢや其の通りぢや少なくともゴーリンの方丈は信ずる事は出来

んよ、

マベル、チルタン嬢　カパーシヤム伯爵様　ゴーリン子爵様のお振舞を少しでも好

くしてお上げ申す事が出来ないで御座いましやうかしら

カパーシヤム伯爵　何も俺は忤に信用がないでの全く俺の手に負へんのぢや　俺の

云ふ事を聞く様だと好んぢやがね　俺の手に負えるやうぢやつたら俺ぢやつて何な

に生育てる位は心得て居る積りぢや

マベル、チルタン嬢　何うで御座いましやうゴーリン子爵様には一ツの纖弱な、他

人の感化を受ける事の出来ないやうな纖弱なお性質があたりになつて其爲めの事ぢ

やないかと思ふんで御座いますの、

カバロシヤム伯爵 彼も思遣りのない考へなしでの、考へなしで困るんぢやよ

ゴロリン子爵 是處では僕は全で鼻摘みなんですわね、

マベル、チルタン嬢 少し位鼻摘みされる方が好う御座いますわ 世間の方々が陰

で何う貴郎の事を云つて居ますか好くお覺り遊ばせ

ゴロリン子爵 私は世間で何う云つて居やうが聞きたくはありません左様な事を聞

くと餘計な事計り考へて仕方がない

カバロシヤム伯爵 そこでゴロリン 俺はもうお暇をせんならんぢや

マベル、チルタン嬢 まあまだお早いぢや御座いませんか私一人をゴロリング様の

お傍に置き放しで行らしやるの？

カバロシヤム伯爵 俺ぢやて彼をドリーニン街などへ連れて行く譯にはいかん、斯様

な呑喰者連れて行つちや總理大臣も却て迷惑ぢやろう

(チルタン嬢に握手し帽子と杖とを手に取り嫌惡の眼鏡くゴロリン子爵を凝視しながら室外に出る)

マベル、チルタン嬢 (薔薇の花を集め机上にある花瓶に挿しながら) 公園でお會す

るやうに折角お約束したのを反古になさる人なんか眞實に嫌なお方ですわね、

ゴロリン子爵 實に怪しからん人間ですわね

マベル、チルタン嬢 貴郎も左様お思召？ まあ平氣なお顔で好くさう仰れます

のね、

ゴロリン子爵 夫は仕方ありませんよ、貴郎と一所に居ると嬉しくつて嫌な顔など

して居る所ぢやありませんからね、

マベル、チルタン嬢 (悲しげに) では私嫌でも貴郎のお傍に居る義務があるんです

のね

ゴロリン子爵 夫は左様ですとも、

マベル、チルタン嬢　まア、さうですの？　けれど私其様義務なんてもの大嫌なん
で御座いますわ　壓し付けられるやうで大嫌なんで御座いますですからお氣の毒で
すが私これで失禮致します

ゴリン子爵　私が頼むんですから居て下さい　貴女に特別お願いしたい事がある
んですから

マベル、チルタン嬢(嬉れしそうに)　結婚のお申込みと仰るんですの
ゴリン子爵(少し屹驚した様子で)　さう夫には違いありません今となつてはもう

隠し立ては出来ませんからお話して終ひます
マベル、チルタン嬢(喜びの歎息をして)　嬉しくて仕方がありませんわ今日は是で
二度目で御座いますの

ゴリン子爵(憤然として)　是で二度目？　私が申込をする前に貴女に結婚を申込
んで来るなんて何と云ふ自惚の強い不作法者でしやう

マベル、チルタン嬢　御承知でしやうが、あのトミートラフオード様ですの　今日
はトミイ様がお出でになる日なんです彼のお方は此頃火曜日と木曜日とを結婚申込
日とお決めになつて居らつしやいますんすよ

ゴリン子爵　貴嬢はよもや夫をお受けになつた様な事はないでしたらうね、
マベル、チルタン嬢　私はトミイ様の仰る事なんか聞かないと決めて居ますの今

朝は貴郎未だお見えにならなかつたからもう少しで好い御返事をする處でしたけ
れど若し私が左様したなら御兩人には返つて好い御學問になつたかも知れせんわ
ね　而して御二人とも屹度眞面目にお堅い方々とお成り遊ばしたでしやうよ

ゴリン子爵　何んて嫌なトミイ、トラフオードだろ　彼奴は野呂間で愚劣極る
人間なんです私眞實の所貴嬢を愛して居るんです

マベル、チルタン嬢　夫は私だつて満更知らなかつた譯ではないので御座いますけ
れど貴郎はモット以前に仰る筈ですわズット前に仰つて戴き度かつたんですの私は

貴郎に随分仰るに都會の好い機會を作つて上げたでは御座いませんか

ゴーリン子爵　マベル嬢様戯談ではないのですよ　眞面目に話して下さい

マベル、チルタン嬢　眞實に眞面目にてわ殿方が結婚前に仰る定まり文句なんです

わね、それこそ結婚なさつて終ふと腰氣にもお出しにならない

ゴーリン子爵(彼女の手を握り)　私は貴嬢を愛していると云つたぢやないですか　貴嬢は夫に答えて少しでも私を愛して下さる事は出来ませんか、

マベル、チルタン嬢　まア貴郎も随分お氣の迂いお方ですわね　貴郎が若し或る事

……貴郎が今お氣付にならない一つの事柄をお知り遊ばしたら私が何なに貴郎の事

を思つて居るか御承知な筈なんですわ、倫敦では貴郎以外何誰でもそれを御存知で

すよ、其私の思ひ方と申したら如何にもそれが成立したやうに至る所觸れて廻つた

ので御座いますよ、半歳此方其事を社交界の至る所觸込で歩いたので御座います、

私は貴郎から今に仰つて下さるか知らん今にお申込になつて下さるか知らんとそれ

許り思つて居りましたんですの私には其外何にも無いので御座います、少くとも私

は貴郎以外何物もないと信じて喜んで居りますの、

ゴーリン子爵(彼女を腕に抱き緊めて熱い接吻をする、漸らくの間祝福の沈黙あり

て)　マベル様、私は貴嬢から屹度嫌はれるに違ひないと思つて夫れ許り心配して

居りましたよ、

マベル、チルタン嬢(彼を見上げて)　貴郎何誰かにお嫌はれ遊ばした事あつて?

私貴郎のやうなお方をお嫌になるやうな人なんか無いと思ふんですの

ゴーリン子爵(再び接吻した後)　然し實際提燈に釣鐘なんですからね

マベル、チルタン嬢(彼に密接して)　私嬉しう御座いますわ、私は又貴郎が釣鐘ぢや

無いかと心配して居ましたの

ゴーリン子爵(暫し逡巡して)　私は……私はもう三十を越して居ます

マベル、チルタン嬢　まア些も其様にお見えにならないこと

ゴーリン子爵(熱情を以て)

何んて情深いお言でしやう、御親切深く感謝します…

…私は正直にお話しますが是れで非常に放逸な人間なんです

マベル、チルタン嬢 けれど私もさうなんで御座います ですからお互ですわ、そ

れはさうと私は姉様にお目には掛つて來なければならぬ

ゴーリン子爵 眞實に？(彼女を接吻す)

マベル、チルタン嬢 エ眞實、

ゴーリン子爵 それではお會ひになつたら私がお話したい事があると仰つて下さい

私朝の内是處でお兄様かお姉様の何れかにお目には掛らうと思つて待つて居たのです

マベル、チルタン嬢 それでは貴郎 態々此處へ私に結婚のお申込みに來らしたの

ではないので御座いますね

ゴーリン子爵(得意氣に) 然うですとも、結婚の事なんかは天才の心に閃いた閃光

の様なものに過ぎないのです

マベル、チルタン嬢 最初の閃光!!!

ゴーリン子爵 最初であり且つ最終なのです

マベル、チルタン嬢 私其れを聞いて嬉しう御座います 五分許りしたら復た歸つ

て参りますから大人しくして居て下さいね、私が彼處に行つてゐる間何にも誘惑され

ないやうにね

ゴーリン子爵 貴嬢が行つて終へば誰れも居なくなつて終ひます だから自然待つ

て居ても待遠い譯です

(チルタン令夫人登場) チルタン令夫人、御機嫌様貴嬢は今日大變御奇麗に見えま

す事

マベル、チルタン嬢 姉様、今日は又大變お顔色がお悪いやうですがけれど貴女

はお顔色の青褪た方が大變好くお見えになつてよ、

チルタン令夫人 ゴーリン子爵様、御機嫌好う

ゴーリン子爵(會釋をしながら) チルタン御令夫人ですか 御機嫌様です
マベル、チルタン嬢(ゴーリン子爵に聞えぬ風に) 私花畑に居りますわ、左側に
ある二番目の棕櫚の木影に、

ゴーリン子爵 左側の二番目ですて

マベル、チルタン嬢(驚いた様な振をして) さうあのいつもの木影ですわ(チルタン令夫人に知られぬ様遠くよりゴーリン子爵に接吻を送り室外に去る)

ゴーリン子爵 チルタン御令夫人私貴女に今日お話する事が澤山あるのです 昨晩
ケベリー夫人がとうとう例の秘密書類を出しました 御安心なさい もうロバート
君は大丈夫ですから

チルタン令夫人(長椅子に突然と座つて) 大丈夫ですて!! まあ嬉しい 貴郎は眞實
に親切なお方ですあね、宅にとつて否え私共兩人にとつて大恩人ですわ
ゴーリン子爵 所が又危ない人が出来たのです

チルタン令夫人 危ない人が出来たと申すと 其は何誰ですか? 何誰なんで御座います?
ゴーリン子爵(彼女の傍に腰かけ) 夫は貴女です

チルタン令夫人 私か? 危険と仰る……? 夫は一體何うした譯なんで御座います?
ゴーリン子爵 危険など云ふと少し大袈裟です 其様な大袈裟な言葉を此様處に使

ふ等ではなかつたのですが然し實際大變な心配事が出来て居るんですよ、私にも一大難事ですがね、昨日の夕方でしたね貴女が私に立派な女らしい、同情を訴へたお手紙を寄越して下さつたのは、貴女は別に深い意味もなく唯昔からのお友達として又御主人の苦順染の友達としてあの手紙を寄越して下さつた所が其手紙をケベリー夫人が私の部屋に這入込んで手に入れて終つたんです

チルタン令夫人 それでケベリー様は其手紙を何う仕様と仰るのです其手紙を彼の

方かたに取とられては何故なげいけなひのです

ゴーリン子爵ししやう(立ち上あがつて)　　チルタン御令夫人ごれいふじん私は貴女あなたに隠かくさずお話しはなしませケベ
リー夫人ふじんは何か其手紙そのてがみを物ものに仕様しやうと思おもつて居ゐるので其手紙そのてがみを貴女あなたの旦那様だんなさまに見みせ
やうと考かんがへて居ゐるので

チルタン令夫人れいふじん　　其れを物ものにする？　と云いふと何どうするのでしやう

チルタン令夫人れいふじん　　けれど彼あの手紙てがみに何どんな解かい釋しやくを附つける事ことが出來できます……決けつして
くさうではないのです、然そんな意味いみではないのです、私わたしが此上このうへもない惱なやみの中うちに
あり貴郎あなたにお助たすけを願ねがつた、貴郎あなたを信しんじてお頼たのみをする、貴郎あなたから好よい智ち慧ゑいをかして
戴いたくやうにお宅たくに上あがる……それをく世よの中に此こんな恐おそろしい御婦人ごふじんがあるでしや
うか……私わたしの其手紙そのてがみを宅たくに見みせる？……何どうしたら好よいでしやう、何どうしてそんな
事ことが起おこつたのですか何どんな次第しだいでそんな事ことになつたのです、さア詳くわしく聞きかして下くださ
いませ

ゴーリン子爵ししやう　　ケベリー夫人ふじんがね私の知しらない内うちに次つぎの間の圖書室としよしつに隠かくれて居ゐたの
です　處ところが夫わたしは私あなたが待まちつて居ゐらしやるものだとばかり思おもつて居ゐたのです　其
處こへロバート君くんが偶然ぐうぜんにお見みえになり隣となりの部屋へやで椅子いすの覆かぶつた音おとがしたので見みて來
ると云いつてロバート君くんが行いつて見みたらケベリー夫人ふじんなんでしやう、其時そのときは夫わたしは大變たいへん
でした私わたしは夫わたしでも猶なほ貴女あなただ　貴女あなただと許ゆるり思おもつて居ゐたのでした　するとロバート君くん
は怒おこつても歸かへりになつて終しまつたのです　そのどさくさまぎれにケベリー夫人ふじんは貴女あなた
からの手紙てがみを奪とつて終しまつたのですが　其れを何時いつ又何どうして取とつたか判わからないんで
す全く困まどつて終しまひました

チルタン令夫人れいふじん　　夫わたしは何時いつ時分じぶん起おこつたので御座ございます？

ゴーリン子爵ししやう　　十時半頃じはんぎやうでした、私わたしはもう斯こうなつたら躊躇ちゆうちゆうしないで全事ぜんじロバート
君くんに話はなして終しまつた方が好よいかと思おもつて居ゐるので、

チルタン令夫人れいふじん(驚愕おどろして彼かれを見みつめ)　　それでは貴郎あなたは其會そのあふ筈はずだつた婦人ふじんはケベ

リ、夫人でなく實は私だつたとロバートに云へと仰るのですか、さうすると夜の十時半頃貴郎のお邸の一室に貴郎がお隠し遊ばした積りの御婦人は私になる理由なんですわね、それでも貴郎は其れをロバートに云へと仰るのですか？

ゴーリン子爵 私は其方が反つてロバート君に事實が解つて好いと思ふんです、

チルタン令夫人(立ち上つて) 其様な事は私には絶対に出来ませぬわ

ゴーリン子爵 夫れでは私から云ひまじやうか

チルタン令夫人 否、夫れは止して下さいませ

ゴーリン子爵(眞面目に) チルタン令夫人夫では困るですね、

チルタン令夫人 さうでも御座りまじやうが夫れ許りはお止し下さいませ 其手紙

をケベリー夫人から送つて來たら其時手紙を途中で取つて終へば好で御座いまじやう さう 致すより外仕方がありませんけれど夫を何して横取したら好で御座いまじやう、手紙は朝から晩まで引切無しに参りますそれを秘書官が一々開ひて見ては

宅に渡すので御座います 私がまさか手紙は全部私の所へ持つて來るやうには云へませんですからね、夫は到底駄目で御座います、まアそんなに黙つて許り居らじやらないで何うしたら好いか仰て下さりませな、

ゴーリン子爵 チルタン御令夫人、まアお静に私に今お尋ねする事にお答へ下さい、

貴女は今手紙は秘書官が開封すると仰りでしたわ、

チルタン令夫人 エ、さう申しました、

ゴーリン子爵 今日の秘書官は誰れですかタフオールド君ではないのですか？

チルタン令夫人 否、多分モントフォールト様で御座りまじやう

ゴーリン子爵 あれなら大丈夫でしやう

チルタン令夫人(失望した顔付をして) 何うですかしら？

ゴーリン子爵 然し不明にしても貴女が仰つたら其通りにして呉れるでしやう？

さうではないですか

チルタン令夫人 夫は左様思ひますけれど……

ゴーリン子爵 貴女のお手紙は桃色の紙に書いてあつたでしやう、だから秘書官だつて色で直ぐ判別が付くでしやう

チルタン令夫人 夫れも左様で御座いますわね、

ゴーリン子爵 所で秘書官は今居ますか?

チルタン令夫人 エ、居りますです

ゴーリン子爵 夫れでは今行つて其話をして來ましやう(戸口に進み寄り戸を開ける)ア、ロバート君が手紙を持つてやつて來ますよ、其手紙がもうロバート君の手に入つたと見える、

チルタン令夫人(苦痛の叫喚を以て) 嗚呼、貴郎は宅の生命を救つて下さつたのに私を救つて下さる事は出來ない、私の生命を何故救つて下さらないのです、

(ロバート、チルタン卿、登場、彼は手に信書を持ちそを讀みながらゴーリン子爵には

氣付かず令夫人の傍に近寄る)

ロバート、チルタン卿 「お頼みが御座います、御信用致します、お伺ひ致し度う存じます、ガートルードより」オ、奥や、是は眞實かい、お前は眞實私を信用して呉れるのかい、私を頼みに思つて呉れるのかい、然らならお前の方から來るなど書いて寄さずとも私の方から行くよ、お前の此手紙で私は世間で何う云はうと恐れる所はないと思つてヤツト安心が出來た、ガートルードやお前は私を頼りに思ふ、左様だね?

(ゴーリン子爵ロバート、チルタン卿に知れざるやうチルタン令夫人に現存の偶然な成行に従ひロバート卿の誤解を其儘受容れるやう相圖をする)

チルタン令夫人 はい、

ロバート、チルタン卿 ガートルードやお前は私を信じて呉れるんだね?

チルタン令夫人 はい、

ロバート、チルタン卿　それなのに何故愛して居ると書き加へて呉れなかつたのか、
チルタン令夫人(彼の手を取り)　夫れは書かなくとも明つて居ますから
(ゴーリン子爵植物室の方へ行く)

ロバート、チルタン卿(彼女に接吻して)　お前私に何んなに心配して居たか知らな
いんだ私は先程モントフォードから机越に此手紙を受取つたが多分状袋の筆蹟も
見ないでモントフォードが誤ちて夫を開封たのだらうと思ふ、私はそれを讀んで見
た　あ、私は何んな不名譽な何んな刑罰が來やうと恐れる事はないお前が私を捨て
ず受して居て呉れ、ばそれで充分だと思つた其時眞實にさう思つたよ、
チルタン令夫人　もう不名譽も何もありません御心配には及びません、ケペリー夫
人が持つて居らした書類はゴーリン子爵がたさせて無効にしてお終ひになつたの
です

ロバート、チルタン卿　眞實かね?

チルタン令夫人　眞實ですとも　私ゴーリン子爵から今聞いたので御座います

ロバート、チルタン卿　ではもう大丈夫だね、まア實際なんだか不思議だね此二日
間と云ふものは私は恐しさに堪えなかつた、此れで漸安神したと云ふものだが、ア
ーサー君は夫を何して終つたんだらう、お前知つて居るか?

チルタン令夫人　なに焼いてお終ひになつたのです

ロバート、チルタン卿　若い時分の罪業が灰になつて行く其有様を見たかつたもん
だね、過去の生涯を目の前で消やしたいと思つて苦心慘憺して居る人が現在何の位
あるか知れやうない、處でアーサー君まだ居るか?

チルタン令夫人　エ、植物室の方へ行らしやいましたよ

ロバート、チルタン卿　昨夜反對演説をやつたといつて好かつた、何か不都合が起つて
來るだらうと思ひながらも反對演説をやつたが　何事も起つて來なくて實に幸だつ
た。

チルタン令夫人 其上大した御評判

ロバート、チルタン卿 左様かも知らん、だが私は寧ろそれが苦痛だ、もう前の事は發覺する氣遣はなし 證據書類は無効になつたし何も心配する事はないが然しガートルドや私何しても官職を罷めて公生涯から退かねばなるまいと思ふ(氣遣はしげに妻の顔を見る)

チルタン令夫人(乘氣になつて) さうですとも貴郎は左様するのが正當です、其れは貴郎の義務なんです、

ロバート、チルタン卿 それは餘り酷過ぎやしないか

チルタン令夫人 否え左様なさる方が好いのです(ロバート、チルタン卿心配そくな顔付で室内を彼方此方歩く、やがて令夫人の傍に來り肩に手を置く)

ロバート、チルタン卿 公生涯を退いて外國さもなくば倫敦を離れた田舎へ行つて一生二人で愉快に暮らす……お前はそれで満足が出来るかね、それでも幸福だと

思ふ事が出来るかい、

チルタン令夫人 貴郎、決して不満足には思ひません、

ロバート、チルタン卿(悲しげに) それが私に對して野心深かつたお前の唯一の注文だと云ふのか、それが現在のにお前の此上ない野心だと云ふのか、

チルタン令夫人 私の野心! 今となつては私に何の野心も御座いません 唯だお互に愛し愛されて居る事が出来ればそれが私には一番の幸福なので御座います 貴郎の御失敗も因はと申せば此野心と申すもの……もう野心深いお話は廢しましやう(ゴートリン子爵満面に喜悅の微笑を湛え誰に貰つたのやら新らしい孔飾を着け植物室より歸る)

ロバート、チルタン卿(ゴートリン子爵の方へ進み) 何も種々御心配! 有難う! 大

に感謝する然し僕は何をして君に謝禮をしたら好いか判らない(握手する)

ゴートリン子爵 否やロバート君其話は後でするよ今あの植物室の……いつもの棕櫚

の木影で……(メイソン登場)

メイソン、カバリーシヤム伯爵のお出で

ゴーリン子爵 彼の御隠居様よく勝手の悪い時來るもんだな、全で考無しなんだか

らな困つちまう(カバリーシヤム伯爵登場、メイソン退場)

カバリーシヤム伯爵、チルタン令夫人 御機嫌好ら、チルタン君昨晚はお手際な演説御

苦勞でしたな 俺は總理大臣の所へ行つて辭職願を出して來たんぢやが早速貴君が

其椅子を占むる事になつたんぢや、

ロバート、チルタン卿(喜びと誇りとに満ち溢れた顔付で)

私が國務大臣の椅子を

……

カバリーシヤム伯爵 さうぢや、是が總理大臣の手紙ぢやよ(手紙を出す)

ロバートチルタン卿(手紙を受取りて讀む) 國務大臣の椅子!

カバリーシヤム伯爵 然うぢやとも、貴君は至極適任と云ふもんぢや、我々が今日政

界に希望して居る諸徳——高尚な人格、高き道義心及び遠大な理想主義を具備した政治家が貴君なんぢや(ゴーリン子爵に向ひ)お前は今云つた三つの中何一つ具へて居らんのだ是からぢやとて具へる時はあるまいかの

ゴーリン子爵 主義だとか何だとか其んな型ぐるしいものは嫌ひです、オア僻見とか偏見とか云ふもの、方が好いです

(ロバート、チルタン總理大臣からの懇請を容るべきや否や兎つ追ひつ思案に暮れ居たりしがふと明瞭透徹な令夫人の眼の絶えず彼を離れざるに氣付き請の容れ難さを決心す)

ロバート、チルタン卿 カバリーシヤム伯爵 折角ですが何も此お申越は受け兼ねます 私は入閣の事など全然斷念しました。

カバリーシヤム伯爵 拒絶すると云ふんぢやね

ロバート、チルタン卿 私はもう公生涯から斷然退隱する事に決心しました。

カパーシヤム伯爵(憤然として)

内閣の椅子を断るのみならず公生涯を退くと云ふ

んかね、俺は此の歳になるが未だ生れてから左様馬鹿げた常識のない話は聞いた事がないわい、令夫人云ひ過ぎたら御免ぢや、チルタン君云ひ過ぎは失敬(ゴーリン子爵に向ひ)お前もさうぢや何故そんなに意味ありげにニヤ／＼笑ひ居るんぢや

ゴーリン子爵 笑つてなど居ません

カパーシヤム伯爵 チルタン令夫人 俺は貴女はお伶俐な方ぢや 倫敦中で一番考

へのある方ぢやと思つて居る、俺の知つとる婦人の中で一番偉い人間ぢやと思つて居る、貴女チルタン君に斯んな事をさせて好いんか、此んな下らん事云はん様に止めにやいかん、お願いだ貴女から云つて上げて下され!

チルタン令夫人 カパーシヤム伯爵様 私は宅の決心が最もだと存じて居ますんで

す私は是が正當だと是認して居ますんで

カパーシヤム伯爵 是認? 夫れや怪しからん、

チルタン令夫人(夫の手を取り)

私は宅の決心に感服して居るので御座います宅が

左様云ふ心になつたのを喜んで居るので御座います私は今迄一度でも斯の様に宅を賞めた事は御座いませんですよ!今度こそは思ふに優つて偉い事が判りました(ロバート、チルタン卿に向ひ) サ一彼方に行らして總理大臣にお断りのお手紙

をお書き遊ばせ、何うなさつたので御座います貴郎躊躇なさつては駄目で御座んすよ、

ロバート、チルタン卿(苦々しさをかすか心に感じ)

私も直に断つた方が好いとは思

つてるのだ 然し斯云ふ事は滅多にあるものでないんだからカパーシヤム伯爵寸度失禮します、

チルタン令夫人 貴郎私も御一所に……好いで御座いませう? (チルタン令夫人

夫と共に去る)

カパーシヤム伯爵 此の家では一體何うしたんぢや 何か間違でもあつたんかいな

(前額を軽く叩き)痴事? さうぢやらう、それも多分遺傳ぢやらう二人が二人共ぢや
からな

似た者夫婦で妻君はロバート宛然ぢや 困つた者共ぢやわい 氣の毒な話ぢやが二
人とも未だ若い歳をして居るから夫が辨らないとは情ないもんなぢや

ゴーリン子爵 父上 決して夫は痴事ではないのです

カパーシヤム伯爵 夫では何ぢや

ゴーリン子爵(漸らく躊躇して) 今日の所謂高い道義心ですわ

カパーシヤム伯爵 俺は新らしかつた名の付いたものは大嫌ぢや五十年前我々が痴

事と云つた事がつまり夫と同じものなんぢや 斯な家に長居は御免ぢや

ゴーリン子爵(伯爵の腕を取り) まあ父上 左様云はないで此處へ居らつしやい

あの左側の三番目にある棕櫚の木影ですよ、そらあのいつもの棕櫚の樹ですよ

カパーシヤム伯爵 何うしたと云ふんぢや

ゴーリン子爵 さうく御免して下さい、未だ何にも話さなかつたんでしたね、父
上、彼の植物室にね貴君にも話して頂きたい人が待つて居るんです、

カパーシヤム伯爵 何んな事を話すのぢや

ゴーリン子爵 私の事をです、父上

カパーシヤム伯爵(懐い顔付をして) 雄辯を振はにやならん問題でもあるまいの!?

ゴーリン子爵 否やそんな問題ぢやないんです、婦人の方ですよ、私によく似た婦

人です、辯などの事は一向に構はない人なんです、却つて辯が好いと五月蠅るやう

な人です、(カパーシヤム伯爵植物室に去る、と入れ違ひにチルタン令夫人登場)

ゴーリン子爵 チルタン令夫人、貴女は何故ケベリー夫人の二の舞をなさるんで
す!

チルタン令夫人(驚いて) まあ、私には少しも解せませんわ

ゴーリン子爵 ケベリー夫人はチルタン君を破滅させやうとしたんでしやう? 公生

涯を退くか破廉恥罪を行ふか二者其一、際どい所をまア破廉恥罪などなさないやう
貴女がチルタン君を救ふた、然るに貴女は今彼を公生涯から引卸さうとしてお居で
になる……何故貴女はケベリー夫人が遣らうとして失敗つた其二の舞を演らうとな
さる

チルタン令夫人　ゴーリン子爵様がでしやう？

ゴーリン子爵（大に云ふ所あらんとし身を引き緊めて洒落の陰に宿れる哲學的態度を
面に示し）まア私の云ふのをお聞きなさい、失禮ですが貴女は昨夜私に手紙をお寄
越しになり私を信用する故急場の善後策を頼むと云はれたそこで今こそ其時ではな
いでしやうか貴女が私を信用し頼みにし相談相手とし私の意見を用ふる時が今到來
したのではないですか、貴女はチルタン君を愛して居られる　貴女は貴女に對する
チルタン君の愛を破棄なさる心算ですか、貴女が今若し彼の野心の成果たる政治的
成功を此處で全く蹂躪して終つたなら……若し貴女が彼の公生涯の諸々の門を閉し

勝利と成功との権利者なる彼を一敗地に塗れしめたなら彼チルタン君は如何なる存
在を樂しむ事が出來ます、婦人は審判すべきものでなく寛容を以て人を容許すべき
ものです、婦人の使命は刑罰でなく赦容にあるのです、貴女は何うして血氣な青年時
代——貴女を知らず自分自身をさへ知らなかつた以前の古い罪惡を今答打つ事が出
來得べきですか、男子の一生は婦人のそれよりはズット高價なものです、其は一層大
なる結果を齎し一層廣き見識の上に立ち、一層偉大なる抱負を持つて居るものです、
婦人の生涯は感情と云ふ境界を回轉して居る許りです處が男子の生涯は智的限界を
越えて進歩し、發達すべきものであるのです、チルタン令夫人　其處を間違はないや
うにして下さい、婦人は男子の愛を持し其愛に報ゆる事をすれば其れで世間が婦人
に望む所又望むべき等の所を立派に仕遂げたと云ふものです

チルタン令夫人（困惑し逡巡して）　けれど公生涯から退くと云ふのも宅がさう決
心致したんですわ、始めに云ひ出したのは私ではなく宅が云ひ出したので御座いま

すよ、

ゴーリン子爵 其れはさうでしやう、ロバート君は貴女の愛を失ふよりは凡ての物を犠牲にし其全生涯をも破壊するに躊躇しないのです、現在は乗るか反るかの際どい所に立つて居るのですが貴女の爲めには非常なる犠牲をも厭はずに拂うとして居るのです、チルタン令夫人 私のお勧めを信じてお用ひなさい、其様な大なる犠牲を拂はすべきではありません、今貴女が私のお勧めを受容れないなら他日屹度悔む時が來ます、男子でも婦人でも我々はお互に其様な犠牲を受くべき者ではない又受けるに足らぬ者なんです、其上ロバート君は既に罰を受けました、充分な刑罰を受けたいんです

チルタン令夫人 私共夫婦は兩人ながら御刑罰に預つたのです、私は宅を餘り高く見過ぎて居たのです

ゴーリン子爵(感情深き聲にて) それだと云つて今度餘りに踏潰な事をなさつては

酷です ロバート君が聖壇から落されたとしても是れを泥田に突落す必要はないでしやう、恥辱の泥田はロバート君の致命傷です、彼の熱情はせめてもの力なんです、貴女がなさる様にしたならロバート君は總てを失つて終ふ、愛を感じる能力さへ失つて終ふんです、ロバート君の運命は現在貴女の掌中にある、其愛情も凡て貴女の掌中にある

(ロバート、チルタン卿登場)

ロバート、チルタン卿 ガートルードや此處に手紙の草稿がある、是れを讀まうか
チルタン令夫人 拜見

(ロバート、チルタン卿該信書を彼女に渡す、令夫人は之を取り、讀み終るや狂熱的な身振に其を引き裂く)

ロバートチルタン卿 何をするんだ

チルタン令夫人 男子の一生は婦人のそれよりはズツト高價なものです 其れは一

層大なる結果を現はし一層廣い見識の上に立ち一層偉大な抱負を持つて居るもので御座います、婦人の生涯は感情と云ふもの以外には出ないのですけれど男子の生涯は智的限界以上に發展し向上して行くものです、私は今始めて夫れを覺つたのです、夫れと共に、以上の事を今覺りました私は此等の事を凡てゴーリン子爵様から教はつたのです、で私は貴郎の爲めに貴郎の生涯を毀損するやうな事はもう致しません又貴郎が私に對する犠牲として其れを毀損なさる事もおさせ致しませせん、夫れは徒らな犠牲と申すもので御座います！

ロバート、チルタン卿　ガートルードや、感謝する

チルタン令夫人　貴郎は以前の事をお忘れになれる、殿方は容易にお忘れになる

私が夫れを見ぬ振りして居りませばそれで好いと申すものは是れが婦人の世に對する勤めで御座います　私は今始めてそれが覺れました。

ロバート、チルタン卿(感餘り彼女を抱擁し)　奥や、奥や、有り難い！(ゴーリン

子爵に)　アイサー君、何時も君の厄介に計りなつて居て濟まない

ゴーリン子爵　否やロバート君、君が感謝すべきは決して僕ではない其處に居る令夫人だよ

ロバート、チルタン卿　否や君に多くを感謝しなけれやならない、處で君が先程カパーシヤム伯閣下がお出でになつた時僕に願ひと云つたのは一體何んな事なのだ

ゴーリン子爵　ロバート君、君はマベル嬢の後見人だ、そこでお願いと云ふのはマベル嬢を僕の妻に欲しいと云ふ其れ文の事さ

チルタン令夫人　まあ、嬉しい事、私は大賛成ですわ(ゴーリン子爵と握手す)

ゴーリン子爵　チルタン令夫人、感謝します

ロバート、チルタン卿(思ひ悩める風で)　僕の妹を君の奥様に？

ゴーリン子爵　然ら

ロバート、チルタン卿(確とした口振りで)　アイサー君、お氣の毒だが夫れは思も

寄らぬ事だよ、僕は妹の將來の幸福と云ふやうな事も考へて遣らねばならぬのだ、彼女が君に於いて幸福を得る事が出来るか何うか頗る疑はしい、僕は彼女を犠牲にするに忍びないのだ

ゴーリン子爵 犠牲にする？

ロバート、チルタン卿 然うだ、全く犠牲にするのだ、君、全然愛のない結婚は不幸なものだが然し其れよりも不幸なものは片想ひの結婚なんだ、信仰はあれど片方のみ崇拜はあれど片方のみ、二つの心の何れか一つ破れねばならぬ結婚なんだ。

ゴーリン子爵 然し僕はマベル嬢を愛して居る僕の生涯を通して僕の愛すべき婦人は他に無いのだ、

チルタン令夫人 貴郎、お互に愛して居るものを結婚が出来ない筈は御座いませんでしやう！

ロバート、チルタン卿 アイサー君にはマベルに應しい愛を持つ事は出来ん

ゴーリン子爵 何んな理由でそんな事が云へる

ロバート、チルタン卿(間を置いて) 君は事實其理由を聞き度いと云ふのか？

ゴーリン子爵 勿論聞きたい

ロバート、チルタン卿 まア何方でも好い、聞き度ければ話しもしやうが僕が昨夜君を訪問した時僕はケベリー夫人が君の部屋に居たのを確かに見た、時もあらうに夜晩く十時か十一時時分……僕は此上を云ひ度くない、君のケベリー夫人に對する關係 其事に就いては昨晩僕が云つた通り僕の關すべき範圍ではない 僕は君が彼の婦人と曾て婚約した事のあるのも知つて居る、彼の婦人が曾て君に及ぼした魅力が今復た蘇生つて來たに違いない、君は昨晩彼の婦人が清淨にして潔白な人間だと僕に云つた、君が尊敬し且つ名譽とする所の婦人だと云つた、夫れは或はさうだらう、……然し僕は妹の生涯を君に托す事は出来ない、それは僕のすべき事でないと思ふ、不正な、怪しからぬ程不正な事柄だと思ふんだ、

ゴーリン子爵　もう何も云はない、君の判断に委せる

チルタン令夫人　貴郎、昨晚ゴーリン子爵様がお待受けになつたのはケベリー夫人ではないのですよ

ロバート、チルタン卿　ケベリー夫人ではない？そんなら誰だつたのだ、

ゴーリン子爵　チルタン令夫人ですよ、

チルタン令夫人　貴郎の奥の私だつたのですよ貴郎、昨日午後ゴーリン子爵様がお出で下すつて若し私に心配事が起つたなら何時でも御相談相手になりましますからお出でなさいと夫れは御親切に友情を以て仰つて下すつたので御座います、夫れから此部屋で例の騒ぎをした後私は思案に餘り『御信用します、お頼み申します、御相談に上ります』と云ふやうなお手紙を子爵様に差上げたのです（ロバート、チルタン卿衣袋より手紙を出す）然うです其お手紙を上げたのでした、けれど私は到々参らずに終つたのです、私は若し救助が來るとしたら私共兩人の中から來べき筈、外

から來るべき筈ではないと感じたので御座います、私の誇が左様思はせたので御座います、處がケベリー夫人が子爵様のお邸へお出でになり此手紙をソツと盗み出し今朝貴郎のお所へ匿名でお寄しになつたのです——貴郎に……貴郎に……オ、貴郎、私は貴郎に何云ふ企謀で其手紙を送つたか……云ふに忍びません忍びません、

ロバート、チルタン卿　何と？　お前は私を一瞬時なりとお前の節操を疑ふ事の出来る人間だと思ふのか、ガートルードや、ガートルードやお前は諸々の善の純潔な化身なのだ、罪業もお前に手を觸れる事は出來ない、アーサー君、マベルは君の所の有だマベルを連れて來給へ、君の祝福を祈る！　オット一寸待ち給へ、此手紙の書出しには宛名がないな、流石のケベリー夫人も此處にはお氣が付かなかつたと見えるナルタン令夫人　それでは私の名前をそこえ書かせて下さい、私が信用し頼みに思ふお方は貴郎計り、外には御座いませんもの

ゴーリン子爵　アットそれも好いでしやうが私が戴いたお手紙ですから持主にお返

しが願ひ度ひ

チルタン令夫人(微笑しながら) 否え 貴郎にはマベル様が居ます、

(手紙を取りチルタン卿の名を書す)

ゴーリン子爵 然うでしたかね、然しお目に掛つてから彼此二十分も経つが心持が又變つて呉れなければ好いが……

(マベル、チルタン嬢及びカパーシヤム伯爵登場)

マベル、チルタン嬢 ゴーリン子爵様、御父上とお話する方が餘程好う御座います

わ、私爾後カパーシヤム伯爵様に計りお話ししやう、而していつも彼の棕櫚の樹の下で……

ゴーリン子爵 戀人よ(彼女に接吻す)

カパーシヤム伯爵(少し後退りして) 何んと云ふ事ぢや、お前は此美しい賢い若婦人がお前のやうな人間を相手にするかせんか其様愚物ぢやと思つて居りはすまいの

ゴーリン子爵 然うですとも、チルタン君も内閣の椅子を全然相手にしないやうな

愚物ぢやないんですからね

カパーシヤム伯爵 チルタン氏、夫れを聞いて俺も安心したよ、まア國家の爲めに祝すべき事ぢや、國家が腐敗し盡さざる間、國民が揚げて過激黨に走らざる中は何時か君に總理大臣の椅子を占めて貰ふ時もあるやうよ

(メーソン登場)

メーソン 令夫人様、お仕度が出来まして御座ります

(メーソン退場)

マベル、チルタン嬢 カパーシヤム伯爵様、御晝餐にお加りになるのお止し遊ばせ好いで御座いませうやう?

カパーシヤム伯爵 結構、では嬢様後でドニン街に行きませうの 貴嬢の前途は多望なんぢや、大々的多望なんぢや(ゴーリン子爵に向ひ)お前にもさう云ひ度い

がお前の前途は全然臺所の手傳位なもんぢやらう、

ゴーリン子爵 然うです、私は其方が結句好いんです、

カバリーシヤム伯爵 お前が此若婦人の理想の良人にならなかつた日には俺はお前を

一志で放拂して終ふから覺悟しとれ

マベル、チルタン嬢 理想の良人！ オ、嫌だ、何ですか彼の世の者のやうに聞え

ますわね

カバリーシヤム伯爵 それでは何だと好いんぢやね、

マベル、チルタン嬢 何なりとお勝手な者で宜しいんです、私が望む所は私が……

私が……子爵様の夫人として眞實に其分を盡し度い事です

カバリーシヤム伯爵 チルタン御令夫人、此言にこそ常識に富んだ小女の人格が忍ば

れると云ふもんぢやの

(衆て退場) ロバート、チルタン卿のみ獨り残る彼は椅子に寄り物思ひに沈む、と

暫くにしてチルタン令夫人夫を探ねて再び引返し來る)

チルタン令夫人(椅子を背越しに) 貴郎、お出でになりませんの

ロバート、チルタン卿(彼女の手を取り) ガートルードや、私に對するお前の心は

愛であるのか或は單に憫憐に過ぎないのか

チルタン令夫人(彼に接吻して) 愛で御座います、貴郎、愛より外に何物も御座い

ません、私共夫婦に今新しい生涯の曙が輝き出しました、是れから新しい生涯が

始まるので御座ります。

(幕)

理想の良人終

大正三年六月二十八日印刷
大正三年七月一日發行

(定價金八拾錢)

不許複製

譯者 磯田三郎
發行者 東京市京橋區南小田原町四丁目四番地 渡邊泰三郎
印刷者 東京市麻布區谷町三十八番地 渡邊隆吉
印刷所 東京市京橋區日吉町四番地 民友社

發行所

泰山堂

振替東京二五四二七番

東京市京橋區南小田原町四丁目四番地

大賣捌所

目

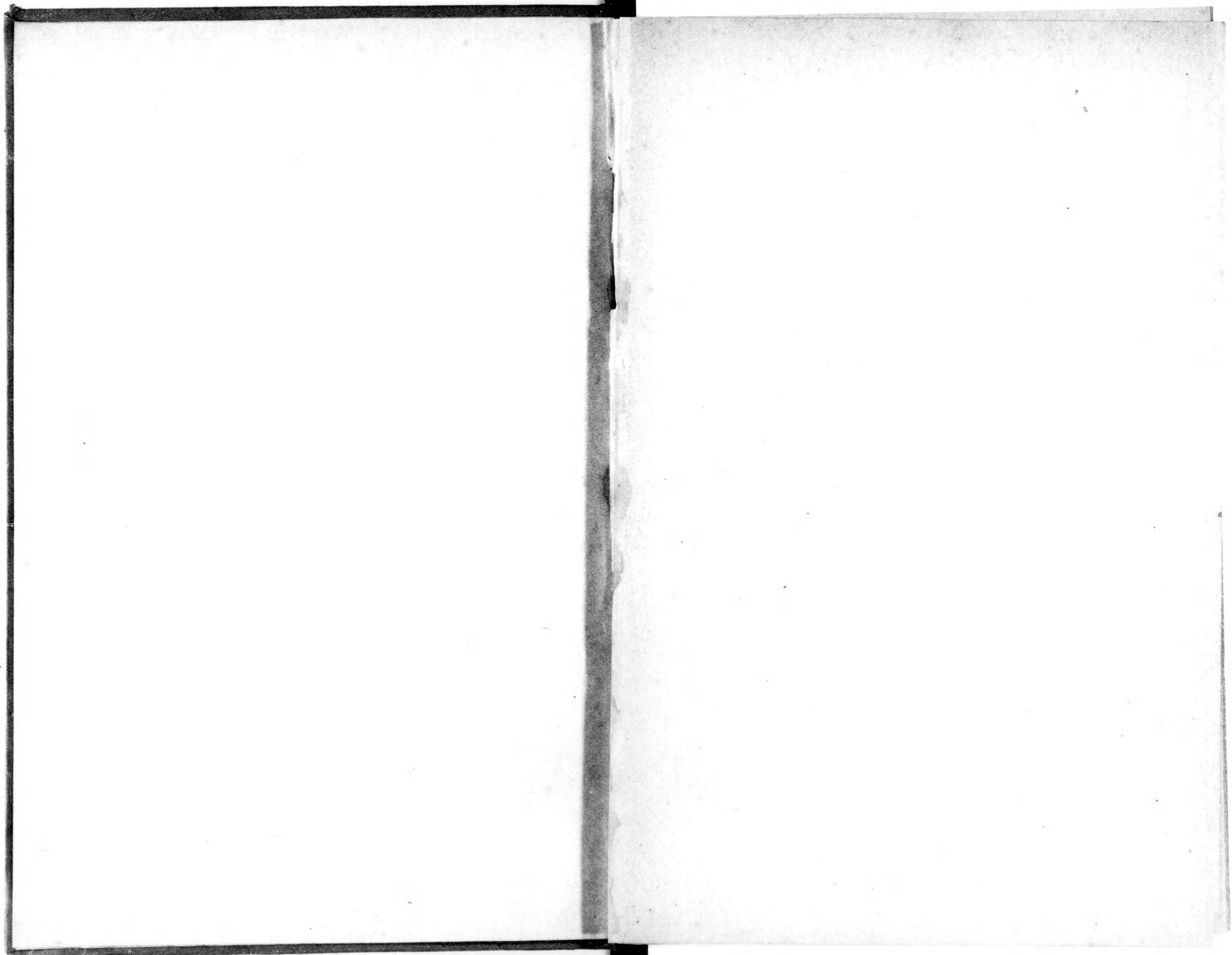
黑

分

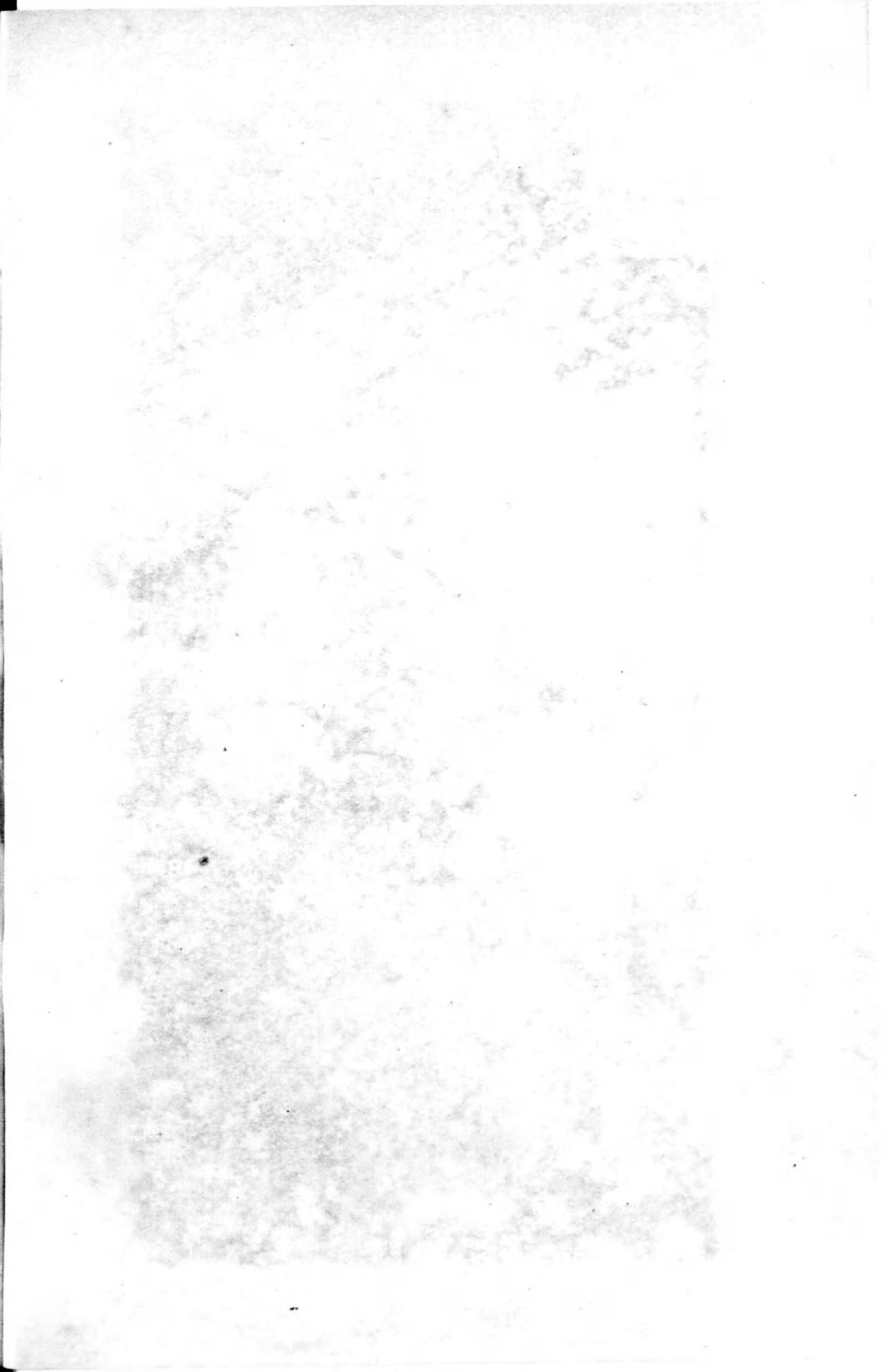
店

東京市京橋區南傳馬町





173
260



終

